

突出し広告

平成15年6月掲載

●肝炎ウイルス対策

ウイルス肝炎の検診はもう済みましたか？

政府広報

ウイルス肝炎の検診はもう済みましたか？

●感染経路が多く、潜伏期間の長いウイルス肝炎は、早期発見・早期治療が重要です。全国の保健所等で検診を受けられることが、必ずその場で、御利用下さい。

●肝炎等の検診を受ける目的での献血は検診が完了してからです。検出できなかったウイルスが、輸血や血液製剤を通じて患者さんに感染してしまう恐れがあります。

●肝炎等の検診は、必ず保健所等で行ってください。

厚生労働省

- 6月16日 読売新聞
- 6月17日 北海道新聞、東京・中日新聞、西日本新聞
- 6月18日 産経新聞
- 6月19日 毎日新聞
- 6月20日 室蘭民報、釧路新聞、十勝毎日新聞、苫小牧民報、東奥日報、陸奥新報、デーリー東北、秋田魁新報、岩手日報、岩手日日、山形新聞、河北新報、福島民報、福島民友、米澤新聞、北羽新報、荘内日報、上毛新聞、茨城新聞、下野新聞、千葉日報、神奈川新聞、埼玉新聞、常陽新聞、新潟日報、北日本新聞、北國富山新聞、福井新聞、日刊県民福井、信濃毎日新聞、長野日報、山梨日日新聞、静岡新聞、名古屋タイムズ、岐阜新聞、東愛知新聞、南信州新聞、奈良新聞、京都新聞、神戸新聞、伊勢新聞、紀伊民報、山陽新聞、中国新聞、日本海新聞、山陰中央新報、山口新聞、四国新聞、愛媛新聞、徳島新聞、高知新聞、岡山日日新聞、島根日日新聞、日刊宇部時報、防長新聞、佐賀新聞、長崎新聞、大分合同新聞、熊本日日新聞、宮崎日日新聞、南日本新聞、琉球新報、沖縄タイムス、鹿児島新報、南海日日新聞、八重山毎日新聞、宮古毎日新聞
- 6月21日 朝日新聞
- 6月22日 日本経済新聞

[閉じる]

突出し広告

平成15年8月掲載

●肝炎ウイルス対策

ウイルス肝炎の検査について

政府広報

ウイルス肝炎の検査について

● 自覚症状が乏しく、検査を受けないとわからないウイルス肝炎は、早期発見・早期治療が重要です。保健所や医療機関で検査を受けることができますので、御利用下さい。

● 検査目的での献血をすることは、絶対にしないで下さい。検査で検出できなかったごく微量のウイルスが、輸血や血液製剤を通じて患者さんに感染する恐れがありますので、肝炎等の検査は、必ず保健所等で受けてください。

厚生労働省

- 8月26日 サンケイスポーツ
- 8月28日 スポーツニッポン
- 8月29日 日刊スポーツ
- 8月30日 報知新聞

[閉じる]

突出し広告

平成15年9月掲載

●肝炎ウイルス対策

ウイルス肝炎の検査について

政府広報

9月23日 産経新聞、朝日新聞

9月25日 北海道新聞、東京・中日新聞、西日本新聞

9月26日 読売新聞

9月28日 毎日新聞



ウイルス肝炎の検査について

●自覚症状が乏しく、検査を受けないとわからないウイルス肝炎は、早期発見・早期治療が重要です。保健所や医療機関で検査を受けることができますので、御利用下さい。

●検査目的での献血をすることは、絶対にして下さい。

●詳細は厚生労働省ホームページの「血液事業の情報ページ」や「C型肝炎Q&A」をご覧ください。

<http://www.mhlw.go.jp>

厚生労働省

[閉じる]

記事下広告

平成15年9月掲載

●肝炎ウイルス対策

「いまんと何ともないよ」という方にこそ受けてほしいのが肝炎ウイルス検査です。

「いまんと何ともないよ」という方にこそ受けてほしいのが肝炎ウイルス検査です。



基礎知識、基礎知識が何よりも大事です。

肝炎ウイルス検査は、肝臓に肝炎ウイルスが感染しているかどうかを調べる検査です。検査の結果は、陽性（感染している）と陰性（感染していない）に分かれます。陽性の場合、肝炎ウイルスが肝臓に感染していることがわかります。また、ウイルスの種類や感染の程度もわかります。検査の結果は、医師と相談して適切な治療を受けることが大切です。

検査は無料・各自治体で実施しています。

肝炎ウイルス検査は、各自治体で無料で実施されています。検査の結果は、医師と相談して適切な治療を受けることが大切です。また、検査の結果は、医師と相談して適切な治療を受けることが大切です。

厚生労働省 | 肝炎ウイルス対策

9月27日 朝日新聞、日本経済新聞、産経新聞

[閉じる]

「いまんとこ何ともないよ」 という方にこそ受けてほしいのが 肝炎ウイルス検査です。

感染していても気づきにくいのが、
肝炎ウイルスの恐ろしいところ。
B型・C型の肝炎ウイルスに
感染している人は、全国で
200万人以上と推定されています。
あなたも、その一人かもしれません。

もしも感染しているなら、
放置しておくのは大変にキケン。
積極的に肝炎ウイルス検査を
受けてください。



早期発見、早期治療が何よりも肝心です。

肝炎ウイルスのなかでも特に注意が必要なのはB型とC型です。これらの肝炎ウイルスに感染した場合、早期に適切な処置を施さなければ肝硬変や肝がんなどに移行する可能性があります。ウイルス性肝炎は自覚症状があらわれにくいこともあり、気づかないまま持続感染者（キャリア）となっている人は、全国で膨大な数にのぼると推定されています。自分は大丈夫と過信しないで、積極的に検査を受けましょう。

	感染経路	主な症状	
主なウイルス性肝炎	A型肝炎	ウイルスに汚染された食物や水の摂取、感染者の糞便などから感染。（経口感染）	①38度以上の急な発熱 ②全身の倦怠感、食欲不振、嘔吐、黄疸 ③約1〜2ヵ月で治癒し、慢性化するとはほとんどない。
	B型肝炎	感染者の血液や唾液から感染。（医療事故、性交渉、母子感染など）	①全身の倦怠感、食欲不振、嘔吐、黄疸 ②ウイルスキャリアのうち10%前後が慢性肝炎、肝硬変、肝がんになる。キャリアの90%は発症せずに一生を終える。
	C型肝炎	感染者の血液から感染するが、感染力は弱い。（性交渉による感染、母子感染はまれ）	①全身の倦怠感、食欲不振、嘔吐、黄疸 ②感染すると成人でも慢性化する機会が多い。本治療の効果が得られない場合、数十年後に肝がんに移行することがある。

●B型・C型肝炎は上として血液を介して感染します。日常生活での感染の恐れはほとんどないといわれています。肝炎ウイルスのキャリアだからといって、特別視するのはやめましょう。

検査は保健所・各医療機関で実施しています。

国は、老人保健事業の健康診査や政府管掌健康保険の生活習慣病予防検診などに肝炎ウイルスの検査を導入。さらに、保健所でも肝炎ウイルス検査を行うなど、検査体制の強化に努めています。また、検査は各医療機関などでも受けられます（通常、自由診療となります）。詳しくは都道府県の感染症対策窓口または保健所・各医療機関におたずねください。

●精度の高い血液検査が導入された1992年以前に、輸血や臓器移植、血液製剤の授受を受けた方、また過去の健康診断で肝機能異常があった方には、特に受診をお勧めします。●現在、輸血用の血液には精度の高い検査が実施されており、肝炎ウイルスが検出された血液は輸血に使われませんが、感染初期にはウイルスが検査をすり抜ける恐れがあります。●検査目的での献血は絶対にしないでください。

話題 TOPICS

肝炎ウイルス検査のすすめ

日本でもっとも多い肝臓の病気、「ウイルス性肝炎」を引き起こす肝炎ウイルスには、A型・B型・C型・E型などの種類があり、主に問題になるのはB型とC型によるものです。肝臓は「沈黙の臓器」とも言われ、ウイルスに感染しても、重症化するまでは自覚症状が現れにくいという特徴があります。また、肝炎ウイルスの中でも、B型・C型は肝硬変や肝がんなどに移行する可能性があります。そのため、早期に感染を発見し、適切な処置を受けることが重要となります。

現在、日本で肝炎ウイルスに持続感染している人は、二百万人以上と推定されています。しかし、感染者の発見は、B型・C型のどちらも、年間わずか約三万人。早期に感染を発見し、治療を開始するには、積極的に検査を受けることが何よりも大

自覚症状がなくても早めの検査を！

早期発見・早期治療が肝心です

肝炎ウイルス検査を受けよう

自覚症状が現れにくく、病状が進行・悪化して初めてわかる「ウイルス性肝炎」。そのため感染していることに気づかないまま持続感染者（キャリア）となっている人が、全国で膨大な数にのぼると推定されています。ウイルス性肝炎は、早期発見・早期治療が何よりも肝心です。自分は大丈夫と過信せず、積極的に検査を受けましょう。

	感染経路	主な症状
A型肝炎	ウイルスに汚染された食物や水の摂取、感染者の糞便などから感染（経口感染）	38度以上の急な発熱。全身の倦怠感、食欲不振、嘔吐、黄疸。※約1~2ヶ月で治癒し、慢性化することはほとんどない。
B型肝炎	感染者の血液や精液から感染（医検事故、性交渉、母子感染など）	全身の倦怠感、食欲不振、嘔吐、黄疸。ウイルスキャリアのうち10%前後が慢性肝炎、肝硬変、肝がんに悪化。※キャリアの90%は発病せずに一生を終える。
C型肝炎	感染者の血液から感染するが感染力は弱い（性交渉による感染、母子感染はまれ）	全身の倦怠感、食欲不振、嘔吐、黄疸。感染すると成人でも慢性化する場合が多い。※治療の効果が得られない場合、数年後に肝がんに移行することがある。

主なウイルス性肝炎

- 切です。
- B型・C型の肝炎ウイルスは、主に血液を介して感染するといわれており、次に該当する人は、感染の可能性が高いと考えられています。自覚症状がなくても、肝炎ウイルス検査を受けることをおすすめします。
- ①平成四年以前に輸血を受けた人
 - ②長期に血液透析を受けている人
 - ③輸入非加熱血液凝固因子製剤を投与された人
 - ④③と同等のリスクを有する非加熱凝固因子製剤を投与された人
 - ⑤ファイブリノゲン製剤（ファイブリノゲン糊としての使用を含む）を投与された人
 - ⑥大きな手術を受けた人
 - ⑦臓器移植を受けた人
 - ⑧薬物乱用者、入れ墨をしている人
 - ⑨ボディピアスをしている人
 - ⑩過去に健康診断などで肝機能検査の異常を指摘され、その後肝炎の検査を実施していない人など

検査目的の献血は絶対にしてない！

肝炎ウイルス検査は、保健所や各医療機関で受けることができます。さらに国は、老人保健事業の健康診査や政府管掌健康保険の生活習慣病予防検診などに肝炎ウイルスの検査を導入し、検査体制を強化しています。

なお、輸血用血液製剤の安全性を守るためにも、肝炎ウイルス検査を目的とした献血は絶対にしてないでください。

B型・C型の肝炎ウイルスは、普通の日常生活の中で感染することはほとんどありません。肝炎ウイルスについての正しい知識を身につけましょう。また、これらの肝炎ウイルスに感染しているからといって、特別視するようなことは絶対にしてないでください。

早めに受けよう
肝炎ウイルス検査

